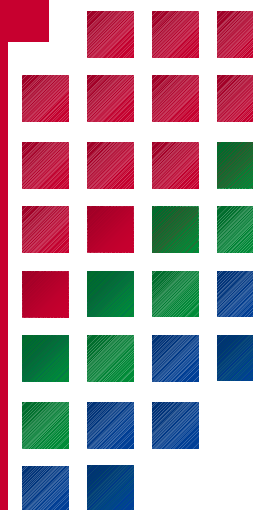




2020年3月期 第3四半期決算の概要

2020年 2月 14日



日本郵政グループ 決算の概要

■ 2020年3月期 第3四半期（累計）の経営成績

（億円）

	日本郵政グループ	日本郵政グループ		
		日本郵便	ゆうちょ銀行	かんぽ生命
経常収益	90,545	29,321	13,584	54,615
前年同期比	△ 5,283 (△ 5.5%)	△ 715 (△ 2.4%)	△ 262 (△ 1.8%)	△ 4,517 (△ 7.6%)
経常利益	6,888	1,531	2,892	2,339
前年同期比	+ 500 (+ 7.8%)	+ 167 (+ 12.3%)	+ 74 (+ 2.6%)	+ 199 (+ 9.3%)
四半期純利益	4,220	1,359	2,100	1,150
前年同期比	+ 298 (+ 7.6%)	+ 120 (+ 9.7%)	+ 67 (+ 3.3%)	+ 183 (+ 19.0%)

■ 2020年3月期 通期業績予想

経常利益	7,100	1,250	3,750	2,700
(3Q進捗率)	(97.0%)	(122.5%)	(77.1%)	(86.7%)
当期純利益	4,200	1,000	2,700	1,340
(3Q進捗率)	(100.5%)	(135.9%)	(77.8%)	(85.8%)

注1: 億円未満の決算数値は切捨て。また、日本郵政グループ数値と各社数値の合算値は、他の連結処理（持株会社・その他子会社の合算、グループ内取引消去等）があるため一致しない。

注2: 各社の数値は、各社を親会社とする連結決算ベース。また、「四半期純利益」及び「当期純利益」は、「親会社株主に帰属する四半期純利益」及び「親会社株主に帰属する当期純利益」の数値。

注3: かんぽ生命の通期業績予想は、2019年11月修正後の数値。

郵便・物流事業 決算の概要

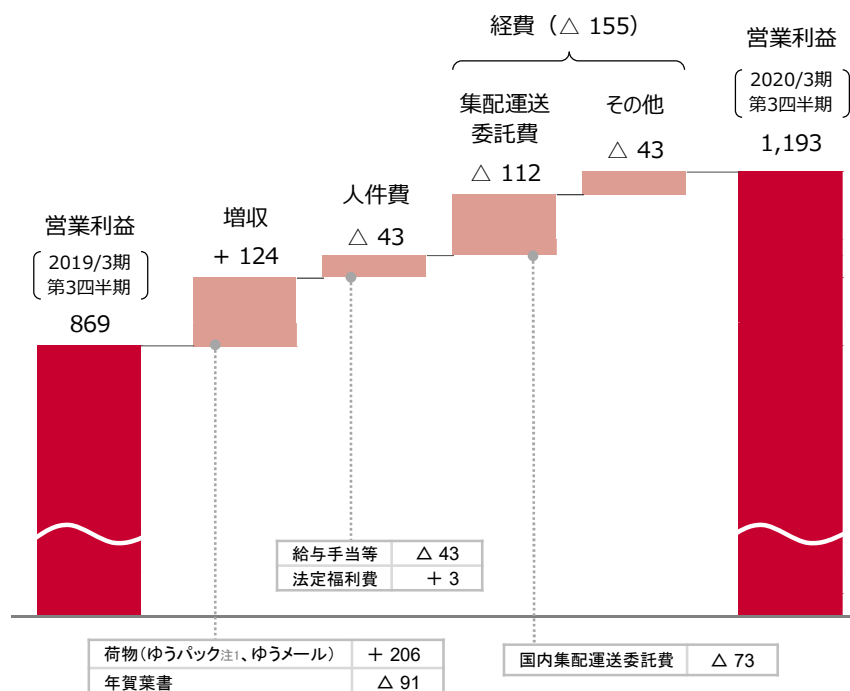
- 取扱数量は、ゆうパック^{注1}が0.6%増（うち、ゆうパケットは18.7%増）、ゆうメールが1.8%減、郵便物は0.5%減。
- 営業収益は、ゆうパケットの数量増と単価見直しの影響による荷物分野の収益拡大が続き、前年同期比124億円（0.8%）の増収。
- コストコントロールの取組等による営業費用の減少が続き、営業利益は前年同期比323億円（37.3%）の増益。

営業利益の増減分析(前年同期比)

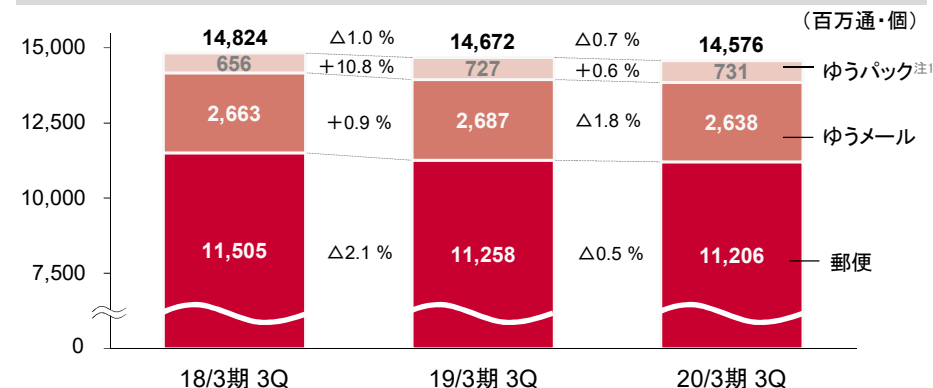
〔営業利益の推移〕

18/3期 3Q	19/3期 3Q	20/3期 3Q
289	869	1,193

(億円)



取扱数量の推移



当第3四半期(累計)の経営成績

	2020/3期 第3四半期	2019/3期 第3四半期	増減
営業収益	16,016	15,892	+ 124
営業費用	14,823	15,022	△ 199
人件費	9,428	9,471	△ 43
経費	5,395	5,551	△ 155
営業利益	1,193	869	+ 323

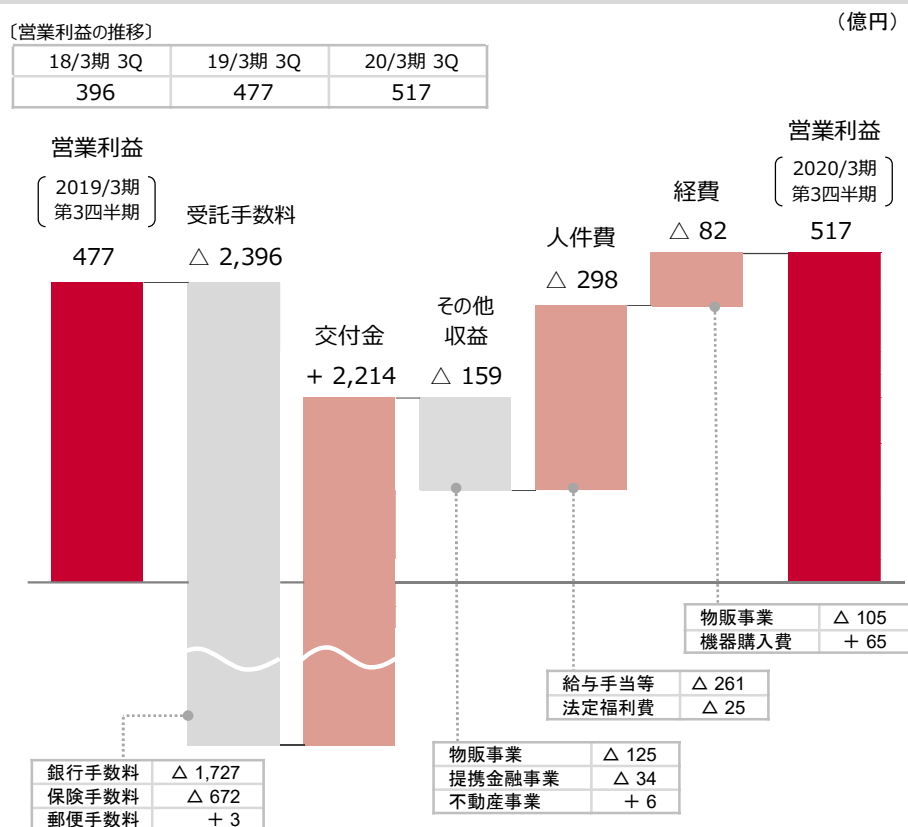
注1: 「ゆうパック」には、ゆうパケットを含む。

注2: 子会社譲渡の影響(営業収益△111億円、営業費用△106億円)を含む。

金融窓口事業 決算の概要

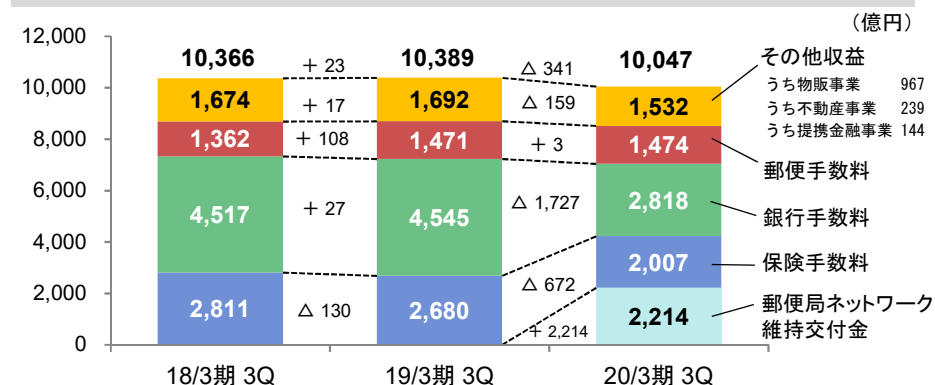
- 営業収益は、かんぽ商品について7月から積極的な営業活動を控えたこと注の影響や、一部事業の絞込みに伴う物販事業の減収などにより、前年同期比341億円（3.3%）の減収。
- 営業費用は人件費はじめ大きく減少（前年同期比△381億円、△3.9%）し、営業利益は前年同期比39億円（8.4%）の増益。

営業利益の増減分析(前年同期比)



注：行政処分により、2020年1月からかんぽ商品の募集及び契約締結を停止中（お客さまからの自発的な意思表示を受けて行う場合を除く。）。

収益構造の推移



当第3四半期(累計)の経営成績

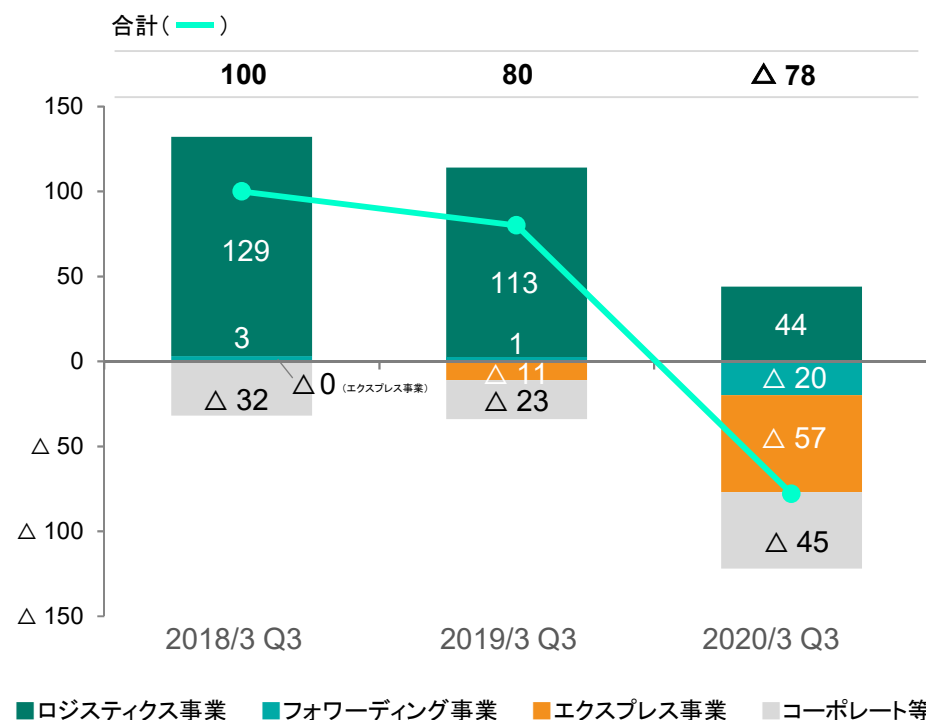
	2020/3期 第3四半期	2019/3期 第3四半期	増減
営業収益	10,047	10,389	△ 341
営業費用	9,530	9,911	△ 381
人件費	6,597	6,896	△ 298
経費	2,932	3,015	△ 82
営業利益	517	477	+ 39

国際物流事業 決算の概要

- 営業収益は、豪州経済減速や米中貿易摩擦などの外部環境の悪化により、主にフォワーディング事業の取扱量が減少し、前年同期比51百万豪ドル減（0.8%、円ベースでは為替影響により9.0%）の減収。
- 営業収益が低迷する中、人件費増により営業費用が107百万豪ドル（1.7%）増加（円ベースでは為替影響により6.8%減少）し、営業損益（EBIT）は78百万豪ドルの赤字を計上。

事業別の営業損益(EBIT)の推移

（百万豪ドル）



当第3四半期(累計)の経営成績

（百万豪ドル、下段括弧内は億円）

	2020/3期 第3四半期	2019/3期 第3四半期	増減
営業収益	6,493 (4,864)	6,544 (5,347)	△ 51 (△ 482)
営業費用	6,572 (4,923)	6,464 (5,282)	+ 107 (△ 358)
人件費	2,109 (1,580)	1,989 (1,625)	+ 120 (△ 45)
経費	4,462 (3,343)	4,475 (3,656)	△ 12 (△ 313)
営業損益 (EBIT)	△ 78 (△ 59)	80 (65)	△ 159 (△ 124)

注1：営業収益、営業費用及び営業損益(EBIT)は、トール社、JPトールロジスティクス社及びトールエクスプレスジャパン社の数値の合計額をそれぞれ記載。

注2：2020/3 Q1からIFRS第16号（リース）を適用。グラフ及び表の2020/3 Q3数値はIFRS第16号（リース）適用後の数値を記載。

注3：表の下段括弧内は期中平均レート（2020/3期第3四半期74.92円/豪ドル、2019/3期第3四半期 81.71円/豪ドル）での円換算額をそれぞれ記載。

日本郵便 決算の概要（まとめ）

- 営業収益は前年同期比692億円（2.3%）の減収（うち、為替影響による減収が409億円）。
- 営業費用は前年同期比933億円（3.3%）の減少（うち、為替影響による減少が407億円）。
- 営業利益は前年同期比241億円（17.5%）増の1,617億円、経常利益は167億円（12.3%）増の1,531億円、四半期純利益は120億円（9.7%）増の1,359億円。

四半期純利益の増減分析(前年同期比)

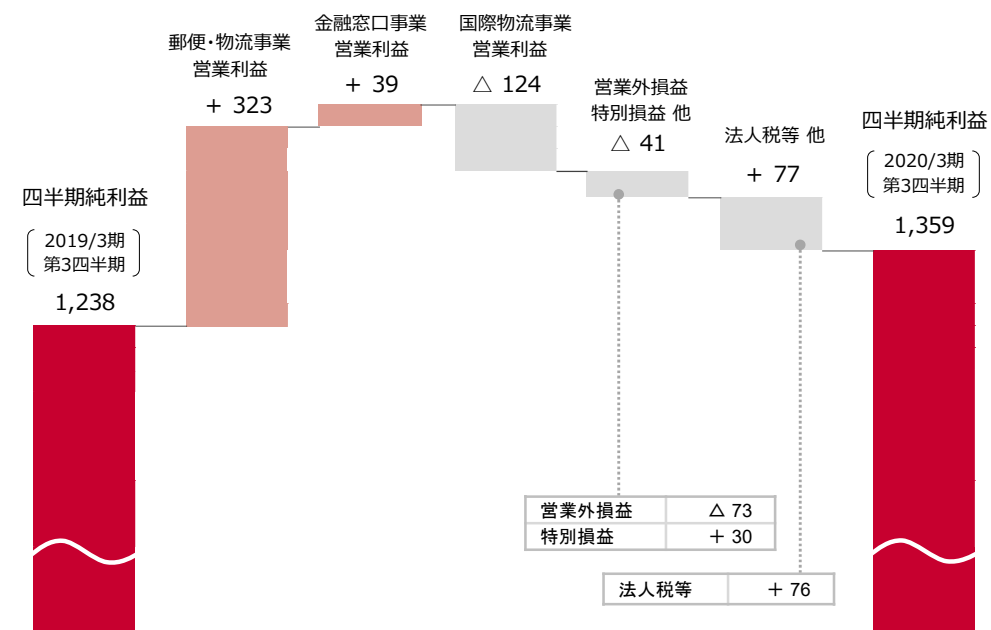
〔営業利益の推移〕

18/3期 3Q	19/3期 3Q	20/3期 3Q
751	1,376	1,617

〔四半期純利益の推移〕

18/3期 3Q	19/3期 3Q	20/3期 3Q
665	1,238	1,359

（億円）



当第3四半期(累計)の経営成績

（億円）

	2020/3期 第3四半期	2019/3期 第3四半期	増減
営業収益	29,293	29,986	△ 692
営業費用	27,676	28,610	△ 933
人件費	17,606	17,993	△ 387
経費	10,070	10,616	△ 546
営業利益	1,617	1,376	+ 241
経常利益	1,531	1,364	+ 167
特別損益	6	△ 23	+ 30
税引前四半期純利益	1,538	1,340	+ 197
四半期純利益	1,359	1,238	+ 120

ゆうちょ銀行（単体）決算の概要

当第3四半期(累計)の経営成績

(億円、%)

	2020/3期 第3四半期	2019/3期 第3四半期	増減
業務粗利益	10,161	10,200	△ 39
資金利益	7,526	7,959	△ 432
役務取引等利益	983	812	+ 171
その他業務利益	1,651	1,429	+ 221
経費 ^{注1}	7,692	7,823	△ 131
一般貸倒引当金繰入額	—	—	—
業務純益	2,469	2,377	+ 91
臨時損益	422	441	△ 18
経常利益	2,892	2,818	+ 73
四半期純利益	2,097	2,031	+ 66

(参考:連結決算情報)

経常収益	13,584	13,847	△ 262
経常利益	2,892	2,818	+ 74
四半期純利益 ^{注2}	2,100	2,033	+ 67

	2020/3期 第3四半期	2019/3期	増減
貯金残高 ^{注3}	1,839,132	1,809,991	+ 29,141
単体自己資本比率 (国内基準)	15.78	15.78	+ 0.00

概要

- 金利が低位で推移するなど厳しい経営環境下、当第3四半期(累計)の業務粗利益は、前年同期比39億円減少の1兆161億円。このうち、資金利益は、国債利息の減少を主因に、前年同期比432億円の減少。
役務取引等利益は、前年同期比171億円の増加。
その他業務利益は、国債等債券損益の改善等により、前年同期比221億円の増加。
- 経費は、前年同期比131億円減少の7,692億円。
- 業務純益は、前年同期比91億円増加の2,469億円。
- 経常利益は前年同期比73億円増加の2,892億円。
- 四半期純利益は2,097億円、前年同期比66億円の増益。
- 連結四半期純利益は2,100億円。
通期業績予想に対して77.8%の進捗率。
- 当四半期末の貯金残高は、183兆9,132億円。
- 単体自己資本比率(国内基準)は、15.78%。

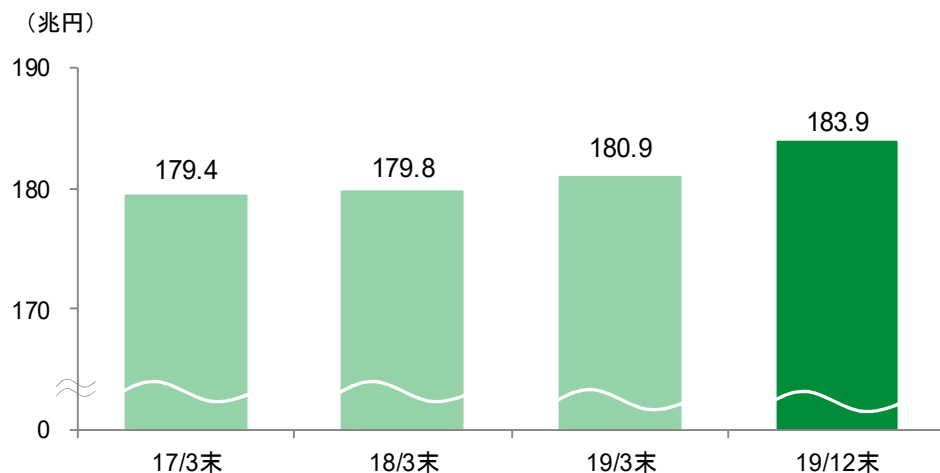
注1: 臨時処理分を除く。

注2: 親会社株主に帰属する四半期純利益の数値を記載。

注3: 未払利子を除く。

ゆうちょ銀行（単体） 営業の状況

貯金残高

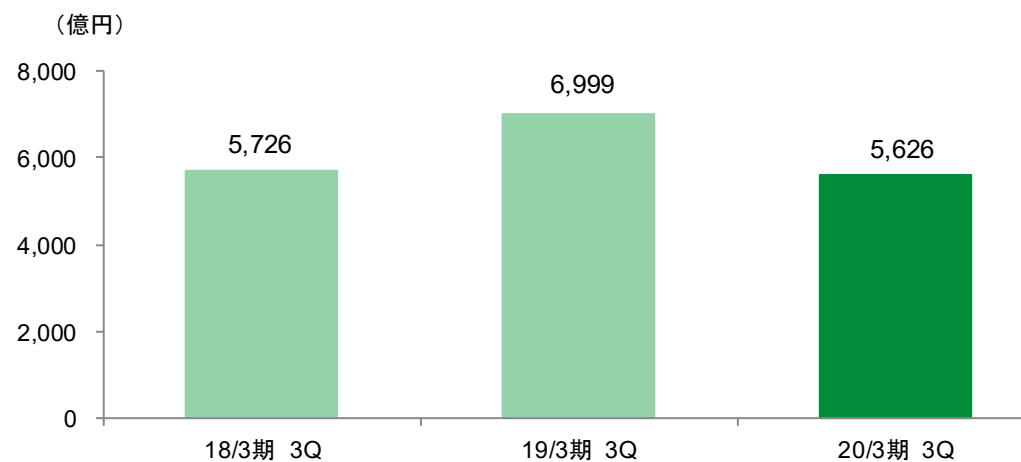


役務取引等利益の内訳

(億円)

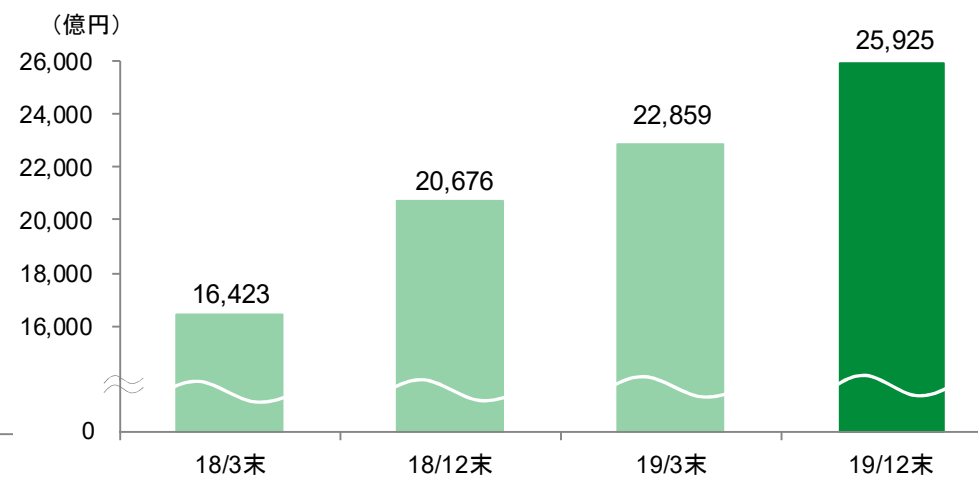
	2019/3期 第3四半期 (累計)	2020/3期 第3四半期 (累計)	増減
役務取引等利益	812	983	+ 171
為替・決済関連手数料	467	609	+ 141
ATM関連手数料	107	138	+ 30
投資信託関連手数料	168	169	+ 0
その他	68	66	△ 2

投資信託（販売額）

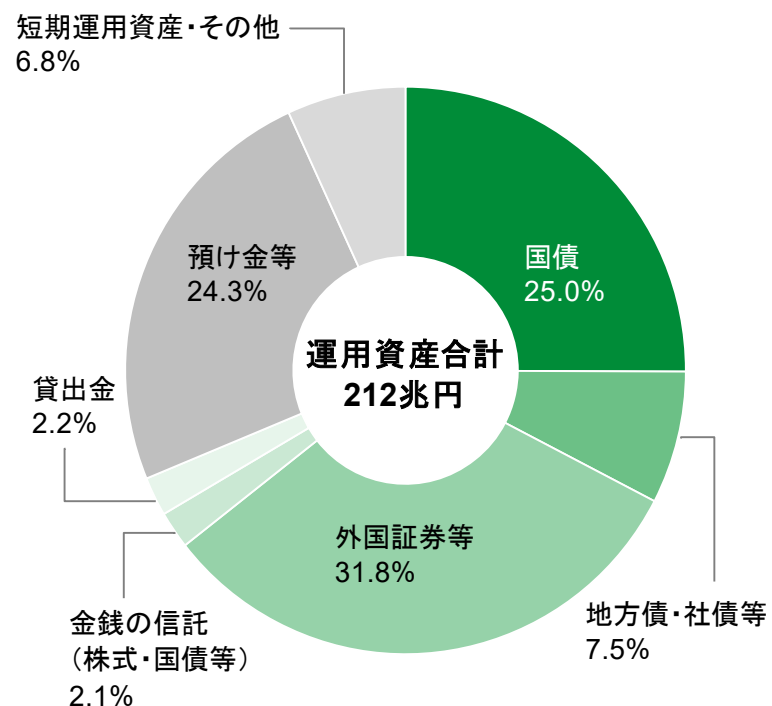


注：表示単位未満は切捨て。

投資信託（純資産残高）



ゆうちょ銀行（単体） 資産運用の状況



	2020/3期 第3四半期	構成比 (%)	2019/3期	構成比 (%)	増減
有価証券	1,368,661	64.4	1,371,352	66.5	△ 2,690
国債	532,376	25.0	583,565	28.3	△ 51,188
地方債・社債等 注1	160,620	7.5	162,791	7.9	△ 2,170
外国証券等	675,664	31.8	624,995	30.3	+ 50,668
うち外国債券	237,803	11.1	220,355	10.6	+ 17,447
うち投資信託 注2	437,415	20.5	404,339	19.6	+ 33,075
金銭の信託 (株式・国債等)	45,000	2.1	39,907	1.9	+ 5,092
うち国内株式	23,061	1.0	21,417	1.0	+ 1,643
貸出金	47,385	2.2	52,974	2.5	△ 5,588
預け金等 注3	517,952	24.3	506,742	24.6	+ 11,210
短期運用資産・ その他 注4	145,399	6.8	88,775	4.3	+ 56,623
運用資産合計	2,124,400	100.0	2,059,752	100.0	+ 64,647

注1: 「地方債・社債等」は地方債、短期社債、社債、株式。

注2: 投資信託の投資対象は主として外国債券。

注3: 「預け金等」は譲渡性預け金、日銀預け金、買入金銭債権。

注4: 「短期運用資産・その他」はコールローン、買現先勘定等。

かんぽ生命 決算の概要

当第3四半期(累計)の経営成績

(億円、%)

	2020/3期 第3四半期	2019/3期 第3四半期	増減
経常収益	54,615	59,133	△ 4,517
経常費用	52,275	56,992	△ 4,716
経常利益	2,339	2,140	+ 199
四半期純利益	1,150	966	+ 183

(参考: 単体決算情報)

基礎利益	3,004	2,930	+ 73
キャピタル損益	△ 574	△ 574	+ 0
臨時損益	△ 87	△ 218	+ 131
経常利益	2,342	2,137	+ 205

個人保険 新契約 年換算保険料	1,438	2,737	△ 1,298
--------------------	-------	-------	---------

	2020/3期 第3四半期	2019/3期	増減
個人保険 保有契約 年換算保険料 ^{注1}	44,414	46,771	△ 2,357
連結ソルベンシー・ マージン比率	1,131.6	1,189.8	△ 58.2

連結実質純資産額	134,902	135,357	△ 455
----------	---------	---------	-------

注1: 保有契約には簡易生命保険の保険契約を含む。簡易生命保険の保険契約は、独立行政法人郵便貯金簡易生命保険管理・郵便局ネットワーク支援機構から受再している簡易生命保険の保険契約をいう。

注2: 金額は億円未満を切捨て。

注3: 第三分野の新契約及び保有契約年換算保険料の数値は、P10「保険契約の状況」を参照。

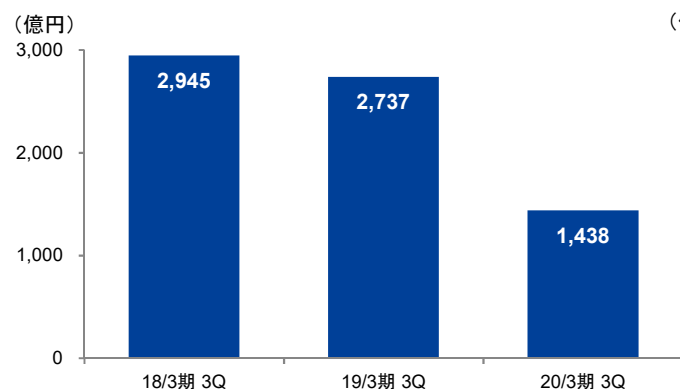
概要

- 基礎利益は、保有契約の減少やご契約調査による費用の増加があった一方で、7月中旬以降の積極的な営業活動の停止の影響による事業費負担の減少や順ぎやの増加等により、前年同期比73億円増の3,004億円。このほか、臨時損益が増加したことにより、経常利益は、前年同期比199億円増の2,339億円。
- 四半期純利益は、経常利益の増加に加え、有配当契約の減少に伴う契約者配当準備金繰入額の減少等により、前年同期比183億円増の1,150億円。通期業績予想に対して85.8%の進捗率。
- 新契約年換算保険料は、個人保険・第三分野ともに前年同期比で大幅に減少。保有契約年換算保険料も、個人保険・第三分野ともに前期末比で減少。^{注1、注3}
- 危険準備金及び価格変動準備金を合計した内部留保額は、2兆7,260億円。健全性の指標である連結ソルベンシー・マージン比率は、1,131.6%、連結実質純資産額は、13兆4,902億円と引き続き高い健全性を維持。

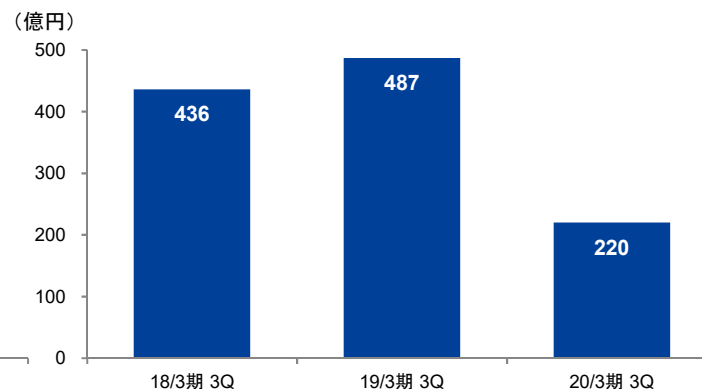
かんぽ生命 保険契約の状況

新契約

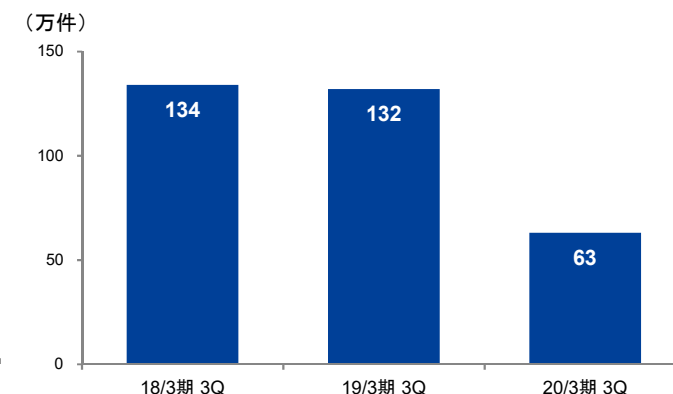
新契約年換算保険料（個人保険）



新契約年換算保険料（第三分野）

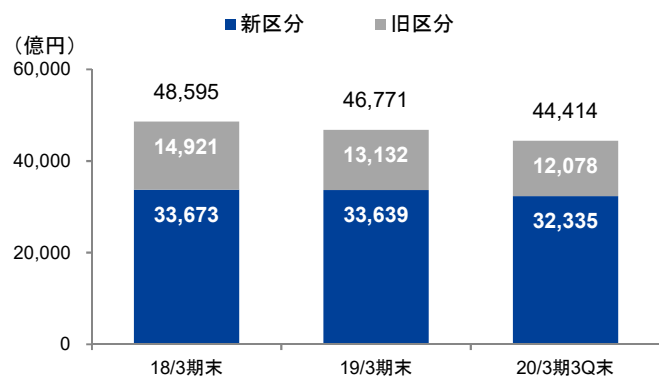


新契約件数（個人保険）

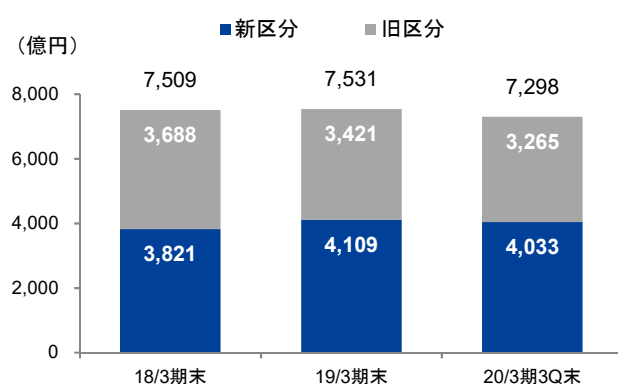


保有契約

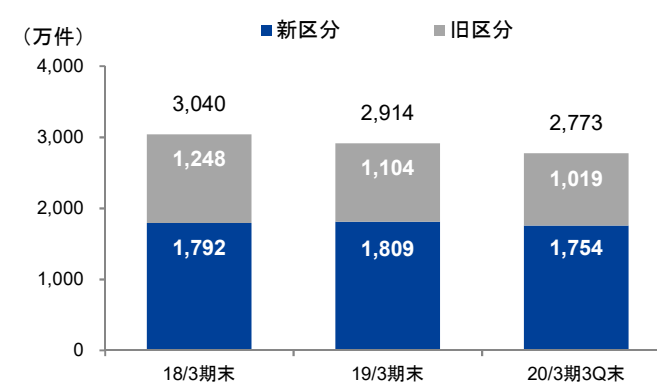
保有契約年換算保険料（個人保険）



保有契約年換算保険料（第三分野）



保有契約件数（個人保険）



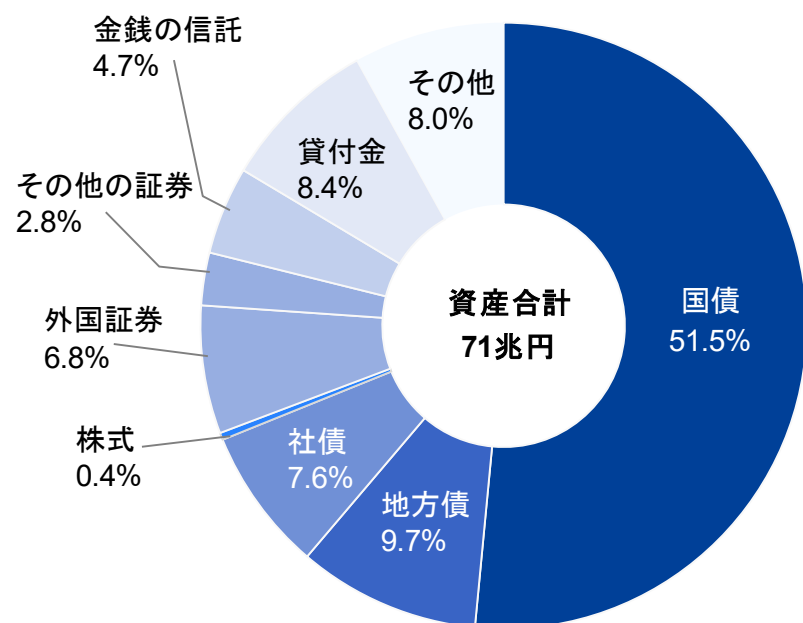
注1：年換算保険料は億円未満、契約件数は万件未満を切捨て。

注2：年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額（一時払契約等は、保険料を保険期間等で除した金額）。

年換算保険料（個人保険）は個人保険に係る第三分野を含み、年換算保険料（第三分野）は個人保険と個人年金保険に係る第三分野の合計値。

注3：「新区分」は、かんぽ生命保険が引受けた個人保険を示し、「旧区分」は、かんぽ生命保険が独立行政法人郵便貯金簡易生命保険管理・郵便局ネットワーク支援機構から受再している簡易生命保険契約（保険）を示す。

かんぽ生命 資産運用の状況

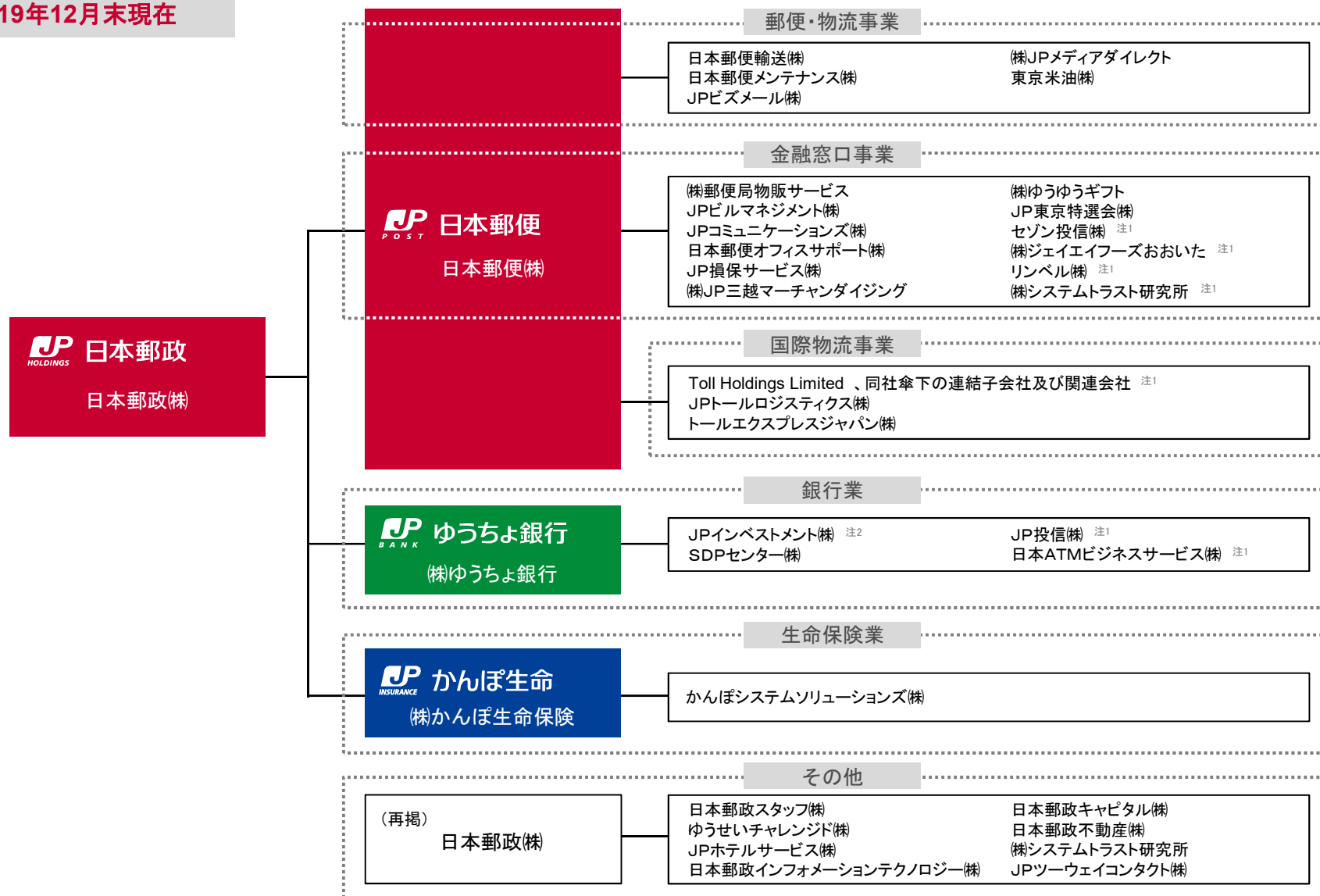


(億円)

	2020/3期 第3四半期	構成比 (%)	2019/3期	構成比 (%)	増減
有価証券	567,083	78.9	584,515	79.1	△ 17,432
国債	370,362	51.5	380,414	51.5	△ 10,051
地方債	69,797	9.7	75,244	10.2	△ 5,446
社債	54,832	7.6	55,629	7.5	△ 796
株式	2,821	0.4	2,055	0.3	+ 765
外国証券	49,026	6.8	52,849	7.2	△ 3,822
その他の証券	20,241	2.8	18,323	2.5	+ 1,918
金銭の信託	33,680	4.7	27,875	3.8	+ 5,804
貸付金	60,313	8.4	67,860	9.2	△ 7,546
その他	57,754	8.0	58,798	8.0	△ 1,043
総資産	718,832	100.0	739,050	100.0	△ 20,217

〔参考1〕 グループ会社関係図

2019年12月末現在



注1：持分法適用関連会社 注2：傘下の連結子会社含む

〔参考2〕 日本郵便(連結) 損益計算書 四半期(3か月)単位

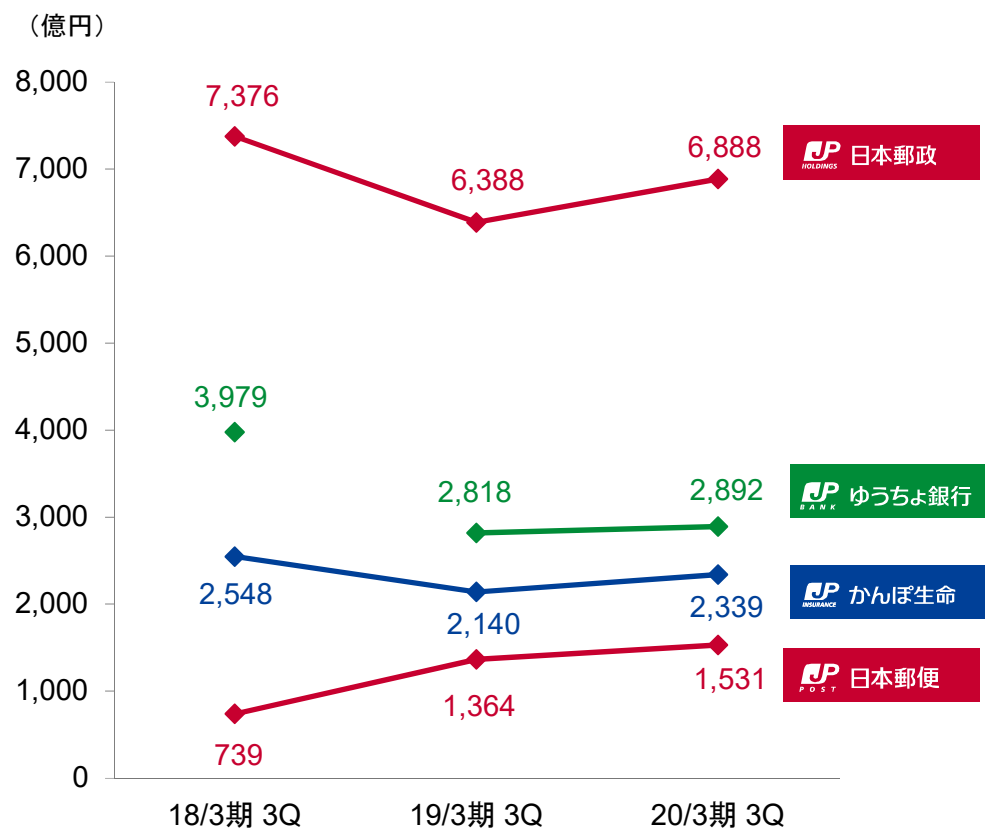
(億円)

	2020/3期 1Q(4~6月)	2019/3期 1Q(4~6月)	増減	2020/3期 2Q(7~9月)	2019/3期 2Q(7~9月)	増減	2020/3期 3Q(10~12月)	2019/3期 3Q(10~12月)	増減	
連 結	営業収益	9,443	9,484	△ 41	9,256	9,390	△ 133	10,593	11,111	△ 517
	営業費用	9,040	9,233	△ 192	9,091	9,386	△ 294	9,544	9,990	△ 446
	人件費	5,874	5,950	△ 76	5,791	5,916	△ 125	5,940	6,126	△ 186
	経費	3,166	3,283	△ 116	3,300	3,469	△ 169	3,603	3,863	△ 260
	営業利益	402	251	+ 151	165	4	+ 161	1,049	1,120	△ 71
郵便・物流事業	営業収益	5,015	4,977	+ 37	4,891	4,687	+ 203	6,109	6,226	△ 116
	営業費用	4,800	4,829	△ 29	4,822	4,884	△ 61	5,200	5,309	△ 109
	人件費	3,105	3,111	△ 5	3,090	3,103	△ 13	3,232	3,257	△ 25
	経費	1,694	1,718	△ 23	1,732	1,781	△ 48	1,967	2,051	△ 84
	営業損益	215	148	+ 66	68	△ 196	+ 264	909	917	△ 7
金融窓口事業	営業収益	3,349	3,316	+ 32	3,305	3,450	△ 144	3,392	3,622	△ 230
	営業費用	3,130	3,207	△ 76	3,163	3,278	△ 115	3,235	3,425	△ 189
	人件費	2,242	2,303	△ 60	2,187	2,285	△ 98	2,168	2,308	△ 139
	経費	888	904	△ 16	976	993	△ 16	1,067	1,117	△ 49
	営業利益	218	108	+ 109	141	171	△ 29	157	197	△ 40
国際物流事業	営業収益	1,601	1,690	△ 89	1,581	1,775	△ 194	1,682	1,882	△ 199
	営業費用	1,620	1,683	△ 63	1,609	1,742	△ 133	1,693	1,855	△ 161
	人件費	526	536	△ 10	513	527	△ 13	540	561	△ 21
	経費	1,094	1,147	△ 53	1,095	1,215	△ 119	1,153	1,294	△ 140
	営業損益	△ 19	6	△ 25	△ 28	32	△ 60	△ 11	26	△ 37

注：国際物流事業の2Q(7~9月)及び3Q(10~12月)数値は、それぞれ期末時点の累計値の円換算額(同期間平均レートで換算)から前四半期末の累計値の円換算額(同期間平均レートで換算)を差し引いて算出。

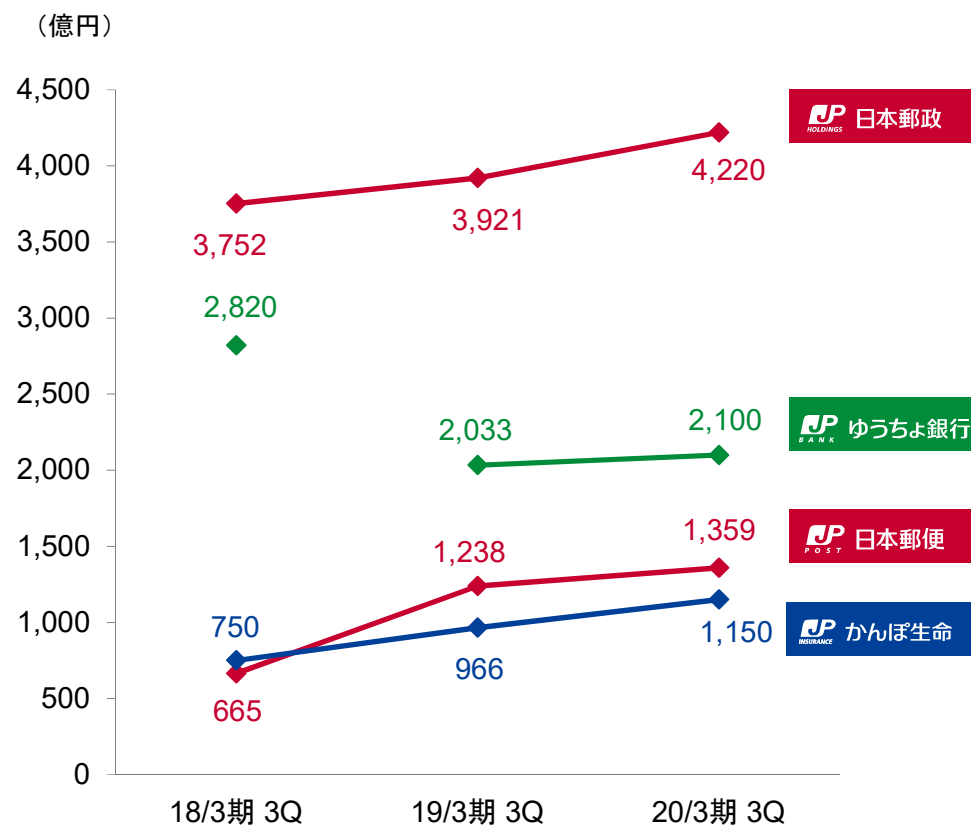
〔参考3〕 経常利益・四半期純利益の推移

経常利益の推移



※ ゆうちょ銀行の18/3期3Qは単体決算ベースの数値。その他は連結決算ベースの数値。

四半期純利益の推移



本資料に記載されている通期業績予想等将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその達成を約束するものではありません。実際の業績等は、金利の変動、株価の変動、為替相場の変動、保有資産の価値変動、経済・金融環境の変動、競争条件の変化、大規模災害等の発生、法規制の変更等様々な要因により大きく異なる可能性があります。